

協力隊通信

2021
Vol.2 4月

春、生き物たちの活動が活発になり、村内でも様々な爬虫類・両生類が見られるようになりました。今回は、そのうち、両生類について紹介いたします。

アカハライモリ(写真1)は村内では普通に見られますが、奈良県のレッドリスト(*)では希少種、環境省では準絶滅危惧種に選定されており、全国的には数が減っています。赤いお腹は捕食者に襲われた時に反り返って見せるため、警告色としての機能があると考えられています。これまで数個体を観察しましたが、上北山村産は赤の占める割合が大きいようで興味深く、もう少しサンプルを集めてみたいと思っています。



写真1.
アカハライモリ。
背面(上)および
腹面(左)。



写真2. シュレーゲル
アオガエルの卵塊。

シュレーゲルアオガエルは、鳴き声と卵塊が確認できませんでした。県のレッドリストでは希少種に選定されています。メレンゲのような卵塊(写真2)を水深の浅いところや、水際の土の上や穴などに産みます。卵塊は、マシユマロのように意外と弾力がありますので、興味のある方は、優しく触ってみてください。

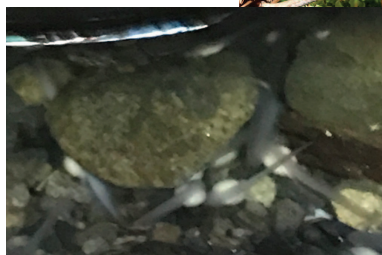


写真3. タゴガエル。
卵塊(左上)、成体
(右中)、幼生(左下)。

タゴガエル(写真3)は、溪流の岩の隙間などにいるため、声はしても姿はなかなか見られず、卵も伏流水中や岩の隙間に産むために人目に付きにくいのですが、運よく2ヶ所で産卵を確認することができました。定期的に観察した結果、およそ14〜19日でオタマジャクシとなり泳ぎだしました。シラスのような見た目だけでなく、お腹に蓄えた栄養のみで成長できるというおもしろい生態ももっています。

*レッドリスト：絶滅のおそれのある野生生物のリスト。

す。これにそっくりな、**ナガレタゴガエル**という希少種もいますが、村内での分布情報は、曖昧なため、実際に生息しているのかも含め注目していません。2種は、水かきを見ると区別可能で、指の途中までしか発達していないのがタゴガエルです（写真4）。もし、似たようなカエルを見かけましたら、ぜひお教えください。



写真4. タゴガエルの水かき。指の途中までしか水かきがありません。

ツチガエル（写真5）は、県のレッドリストでは希少種に選定されています。河原の小さな水溜まりで見つけました。カエルとしては珍しく、通常は幼生越冬し、翌年に変態するため、同じ場所で発見したオタマジャクシ

は時期的に前年生まれだと考えられますが、一部を飼育して種の確認をしています。



写真5. ツチガエル（左）と幼生（右）。

ナガレヒキガエル（写真6）は、県のレッドリストでは絶滅危惧種に選定されています。普段は林床に生息し、繁殖期になると溪流に集まり、流れの緩やかな淵や滝つぼなどにひも状の卵塊を産卵します。オタマジャクシ

クシは、真っ黒で、溪流で流されないように吸盤のようなおもしろい口をしています。

最後にサンショウウオですが、奈良県には、6種が分布するとされています。その内、上北山村には、有名な**オダイガハラサンショウウオ**以外に、**ハコネサンショウウオ**と**マホロバサンショウウオ**が分布するようです。県のレッドリストでは3種とも絶滅危惧種であり、オダイガハラサンショウウオは県指定天然記念物でもあります。ただ、隠棲的な生き物ですので、村内での生息地情報も少なく、他の種が分布する可能性もゼロではないため、期待しながら色々な場所を探しています。

最後に。カエルの鳴き声はネット上で検索できますので、ぜひ色々な種を聴き比べてみてください。今まで気にしていなかった鳴き声に親しみを感じていただけたら嬉しいです。そして、貴重な両生類がたくさん生息する村の自然環境がこのまま保たれることを切に願います。

写真6. ナガレヒキガエル（左）と卵塊（右）。



両生類は皮膚毒を持つものも多く、特に目や口などに入ると場合によっては炎症等おこしますので、触ったあとは必ず手洗いをお願いします